

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 11 月 11 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4391300169		
法人名	社会福祉法人グリーンコープ		
事業所名	グループホームほのか・豊野		
所在地	熊本県宇城市豊野町糸石3928-1		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	平成28年1月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アクシス
所在地	熊本県熊本市南区八幡9-6-51
訪問調査日	平成27年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の一人一人のペースに合わせたケアの実践 我が家にいるように、のんびりゆったりと過ごしていただけます 入浴は一人でゆっくりと好みの湯加減で入れます グリーンコープや地元の食材を使った食事、おやつを用意しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームほのか・豊野は、計画の段階から多くの職員が参画しており、職員ひとりひとりのそれまでの経験やアイデア、また思いを集結させた事業所となっています。運営方法についてもトップダウン方式ではなく、職員自らが考え、「ああしましょう・こうしましょう」と意見を出し合い、総意に基づいた運営を行っています。あくまでも利用者目線で、職員にも受け入れられる取り組みがケアの質の向上につながると思います。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の時に唱和して毎回確認している	事業所では「1. 私たちは、和みの場を提供します。1. その人らしさを大切にします。1. 地域とのつながりを大切にします。」という基本理念を掲げ、玄関正面に掲示している。また、実践に向けた取り組みとして、会議での唱和や言葉使いなど、気付いた時はその時点で指導を行うようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	定期的にサロンを開催して、交流を深めている 夏祭りや1周年祭を行っている	事業所は、法人としての立場で自治会に入会しており、会費の支払いも行っている。ただ自治会の活動については、免除されているとの事で、自主的に近隣のゴミ拾いを行ったり、道路面に花を植えたり、また何か言われる前に事前に行うという気持ちで取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催して地域の方々に理解をいただいている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二が月に一度開催している	会議は奇数月の第2火曜日に行っている。メンバー構成は多彩で、民生委員が3名、区長が2名、婦人会長、消防団長、利用者の家族、その他市の担当者や地域包括支援センター職員などとなっている。主な内容としては、事業所の利用状況や利用者の状態、また取り組みなどについて報告し、意見やアドバイスまた質疑応答などを行っている。	多彩なメンバーで構成されています。勉強会を交えたり、またメンバーの知識や豊富な経験を生かした会議の進め方もあるかと思いません。考えてみてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加をお願いしている 電話での連絡も密に行っている	運営推進会議での意見交換のほか、市の担当者からはいろいろな情報がメールで送信されている。また、書類提出などで市役所に出向いた時は、担当者を通して処理するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵はあります 状況に応じてかけることもあります	事業所では、項目を決めて勉強会を行っている。また熊本県本部でも年に6回研修会が行われており、職員が2名ずつ交代で参加している。ただ、2～3名の利用者に問題行動があり、現状では状況に応じた施錠を行うような対応となっているようである。職員からの聞き取りでは、つい「ちょっと待って」と言ってしまう事があり、注意しなければいけないということであった。	この事業所に入所された後、良く喋られるようになった利用者もおられるようです。問題行動のある利用者の中には、認知症以外にも病気を持っている方もおられると思いますので、簡単ではないと思いますが、施錠の必要がなくなる日が来ることを願っております。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の説明等の時に要望をお聞きしている 不安なことがあった時は家族に連絡を行う		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配事には丁寧に相談に応じます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にできることはしていただきながら支援している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者の変化等はつぶさに報告し、共に考えて頂いている		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の来訪等多くの方に来ていただける努力を怠らないようにしています	通い慣れた美容室を利用したり、気心の知れたかかりつけ医への受診介助を行ったりと、関係継続の支援を行っている。また家族や友人、地元の方など多くの方々に来てもらえるように努力しており、備え付けの来客者名簿には、毎日のように面会者の名前が記載されていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内の椅子の配置などで、それぞれ話を通じる人となりどうしにしたりしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された家族の方と野連絡を行っている		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	している	管理者によると、帰宅願望ほどの利用者にもあり、しっかり寄り添い傾聴する事が大事だという話が聞かれた。「どこに行きたい？何が食べたい？いつ食べたい？」などの聞き取りを行い、約束をしたら必ず実行するようにしている。また、アニメを見て笑ったなど、表情の観察にも注意しており、思いや意向の把握に繋げている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりと行う	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別リハビリを検討	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員でモニタリングを行っている	まず暫定的な介護計画を作成した上で、3ヶ月間、課題とケアの在り方について妥当であるか確認するようにしている。モニタリングについては、2ヶ月に1回のペースで実施しており、その際はスタッフ全員が参加している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りで情報を共有して気づきに生かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出等本人の希望を受けて行っている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行っている	
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。通院の為に人員も配置しており、日頃の状況を正確に伝えることで、適切な医療を受けられるように支援している。また服薬の時間や量の調整など、必要に応じて医師との相談も行っている。

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる 訪問看護の導入	入居契約時に重度化した場合の対応についても説明している。また入居時から看取りも視野に入れており、実践者研修の講師による勉強会やグリーンコープ本部の研修にも参加している。	看取りの重要性が指摘されています。また一方で看取りに立ち会った職員の悩みも報告されています。医療機関との連携、家族の協力、職員のスキルアップ等々、十分な準備を行ってください。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施	避難訓練を年に2回実施している。その内1回は消防署の指導のもと、また1回は夜間を想定して行っている。訓練は全職員が参加して行われている。また、非常時の備えとして、水・食糧が3日分、その他にオムツなどを行っている。	利用者が全員安全に避難するためには、近隣の方々の協力が欠かせないと思います。運営推進会議などを通じて、訓練参加への呼びかけや協力体制づくりについて話し合ってみてはいかがでしょうか。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている	利用者と話をする時に大きな声で話したり、また恥ずかしい事は決して言わない様になっている。排泄誘導時の声掛けも、トイレとかおしっことか言わない様になっている。職員からの聞き取りでは、病気などで落ち込んでいる時の対応がとても大事で、寄り添いゆっくり話をしてあげるようにしていると言ったことであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアの実践		

39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を依頼している。 夜間と日中の差をつけるためにパジャマの着用をいただいている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲でお手伝いをお願いしている	もやしの根切りやイモの皮むき、インゲンの筋取りなど、能力に応じたお手伝いをお願いしている。また趣向調査を行い、食事形態に工夫を凝らす事で食事が楽しくできるよう支援している。食事前には、嚥下体操も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実践を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行っている	2名の方がオムツを利用しておられ、1名の方は夜間のみの利用となっている。大方の利用者は、尿意や便意がはっきりしており、トイレでの排泄を支援している。また排泄記録も付けており、時間による声掛けや態度によるサインを感知し、トイレでの排泄を支援している。ひとつひとつの介助動作は事前に声掛け、納得の上で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、リンゴなどを多く提供している 運動が今後の課題		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望があれば優先的に行う。	1日おきの支援となっており、時間は9:30～16:30の間となっている。お湯はひとりひとり入れ替えており、足ふきマットも交換している。利用者の体調や希望を重視しており、決して無理強いはいしない様になっている。楽しく入浴出来るように、足をマッサージしたり柚子を入れたり、シャンプーの時にはタオルを使い、目に入らない様にするなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休む時間は個々に決めてもらっている		

47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	課題がある		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行っている	畑に野菜を植えており、収穫を見に行きましょうなど、戸外に出る機会としている。また通院時や彼岸町見物、回転寿司に行くなどの支援も行っている。	年間を通して戸外に出れる絶好のコンディションはそう沢山ありません。気候のいい時期や天気の良い日には、出来るだけ外の空気を吸い、気分転換やストレス発散に努めてほしいと思います。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお預かりして、必要時に使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	している	室内はとてもきれいで、水回りも含めて異臭などは全くありませんでした。また感染症対策にも力を入れており、利用者の皆さんが触れる機会の多いテーブルや手すり、取っ手、トイレ、洗面所などは次亜塩素酸ナトリウムで毎朝拭き上げている。その他、空気清浄機の設置や床暖房が完備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置などで話しやすい人の隣にしたりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にあるものを持ってきたもらったりしている	基本的な設備は空調機器、クローゼット、ハンガーレールとなっている。ベッドに関しては、個人個人のリース契約となっている。家具や調度品については、今まで使用していた馴染みの物を持って来てもらうように話している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない